

6 足尾の植樹活動を振り返って

足尾の植樹活動は、隊員たちや参加者に何をもたらしたか

足尾・松木地区の山々は、平成 14 年度から平成 30 年度までの 17 年間に及ぶ、延べ 3,200 余名の少年隊員や保護者、関係者の皆様の心温まる支援活動により緑が取り戻されつつあります。活動に参加された隊員や保護者などからは、「貴重な体験ができ感動した」といった沢山の感想を

いただいているところです。そこで、この足尾の植樹活動は、参加された少年隊員や関係者の皆様の目にどのように映り、何をもたらしたのか、参加者アンケート調査を行い、当手を振り返ってそれぞれの想いをお聞きしました。

1. アンケートをお願いした方々

- ① 県内各地から水と緑の少年隊員として足尾の植樹活動に参加した児童・生徒【14名】
- ② 文星芸術大学附属中学校及び作新学院小学部・中等部在籍し、水と緑の少年隊員として参加した児童・生徒【57名】
- ③ 上記②に引率された教諭【28名】
- ④ NPO法人とちぎ生涯学習研究会のメンバーとして参加した方々【4名】

2. アンケートの結果

少年隊員の想い

Question.1 初めて参加した時はどのような印象でしたか。

足尾を山を初めて見た隊員の印象は、千差万別だった。
 ・ずいぶんと寂しい場所、同じ栃木県にこういう所があるのか
 ・全然山っぽくない、森のように木が生えるのか
 ・可能な限り緑化の手助けをしたい
 また、お昼の豚汁やおにぎり、焼きそばなどが美味しく、楽しかった。

隊員の主な意見

隊員の意見 01

かつては銅山として栄えていたことは知っていたが、実際に行ってみると、山に木が生えておらず、土がおうど色になってしまっている所があって、ずいぶんと寂しい場所だと感じた。

隊員の意見 02

同じ栃木県にこういう所があることに驚いた。

隊員の意見 03

山に行くと聞いていたのに、着いたら全然山っぽくないと思った。

隊員の意見 04

本当に森のように木が生えるのかと思った。

隊員の意見 05

岩肌の露出が寒々しく見え、可能な限り緑化の手助けをしたと思った。

隊員の意見 06

はげ山と緑や小川のコントラストに、本当に人が枯らしてしまっただけなんだなと実感した。

隊員の意見 07

一見すると何もないような山に見えたが、着実に植林しているのが見えて、この努力を続けていくべきと思った。

隊員の意見 08

山は禿山で荒涼としていたが、水や空気がとても綺麗で、動物の足跡を見つけたり、新たに林が出来ていたり、所々に森の再生を感じられた。

隊員の意見 09

バスでの移動時間が長く、苗木もとても重くて辛くて、こんなことに意味なんかあるのかと思っていた。

隊員の意見 10

山の中で木を植えたり、お昼の豚汁やおにぎり、焼きそばなどが美味しく、楽しかった。

Question.2 2回、3回と何度か参加するごとに、印象は違ってきましたか。

2回、3回と植樹活動に参加した隊員は、緑がだんだんと増えていく様子を目の当たりにし、感動し、木の成長に興味を持つようになり、もっと緑を増やしたいという気持ちが芽生える。

隊員の主な意見

隊員の意見 01

最初のうちは、何のために行くのだろうと、行きたくないと思っていたが、3回目あたりで、昨年植えた木はどうなったのだろうと気になるようになった。また、この小さな木が大きく育って欲しいと思った。

隊員の意見 02

もっと緑を増やしたいという気持ちが芽生え、積極的に参加したいと気持ちが高まった。

隊員の意見 03

毎年何本も木が植えられて、緑が増えていく様子が感じられた。

隊員の意見 04

毎年この活動を行い、山の緑を増やしていったのだと感じ、すごいなあと感動した。

隊員の意見 05

生物の痕跡などを見るうちに、このような環境でも再生することは可能だという希望が見えた。過去に植えた木々も成長し徐々にもとに戻ることができるのだと思う。これを守る努力をする人は凄いなと思った。

隊員の意見 06

最初は木についてだけ興味があり参加していたのだが、1度植樹を体験して、木の植え方、どんな過程で成長していくのかに興味を持つようになった。

隊員の意見 07

自分が植えた木が大きくなっていることに嬉しい気持ちになった。

隊員の意見 08

3回目の参加で、茶色の多かった山が少しずつ緑色になった。植樹も一人で出来るようになった。

Question.3 参加した中で、何か思い出に残っていることはありますか。

足尾の植樹活動は、隊員たちにいろいろな思い出を残している。
 ①今は手に持てる木が大きな木になるのだと思い一生懸命植えたこと。 ②植樹場所が斜面で大変だったこと。
 ③山の色がとても変だったこと。 ④沢山の人が心を込めて植樹していたこと。
 ⑤向かいの山に熊がいたり、猿が沢山いるのを見たこと。

隊員の主な意見

隊員の意見 01

木が重く、生命の大切さを実感した。今は手に持てる大きさの木が大きな木になるのだと思い、一生懸命植えたこと。

隊員の意見 02

前の人が植えた木が大きく成長しているのを見て、自分の植えた木も将来の役に立てることを実感したこと。

隊員の意見 03

植樹場所が斜面で大変だったこと。

隊員の意見 04

山の色がとても変だったこと。

隊員の意見 05

植樹活動に参加したたくさんの人が、心を込めて植樹していたこと。

隊員の意見 06

小川の水をペットボトルで汲んだこと。自然が感じられてとても気持ちの良い場所だった。

隊員の意見 07

植樹を一度でも人生の中で体験できたこと。

隊員の意見 08

いろいろな人と話せたこと。

隊員の意見 09

向かいの山に熊がいたり、猿が沢山いるのを見たこと。

隊員の意見 10

バスの中で飲物やお菓子を食べながら行って楽しかったこと。

Question.4 足尾の植樹活動を振り返ってみて、どう思いますか。

足尾の植樹活動は、隊員たちの心に、一つのレガシーとして息づいている。

- ①自分の参加した活動は、自然の再生のみならず地球温暖化の抑止にもつながる大切な活動である。
- ②木一本を植える大変さを知ったので、これからも自然を大切にしたい。
- ③今後の未来にかかわることをしたという達成感がある。
- ④環境について考える良いきっかけとなった。足尾銅山とその周辺地域はとても衝撃的だった。

隊員の主な意見

隊員の意見 01

自分の参加した活動は、自然の再生のみならず地球温暖化の抑止にもつながる大切な活動であると思った。

隊員の意見 02

自然に触れたり自分たちの手で自然を造るということはとても貴重な経験で、木一本を植える大変さを知ったので、これからも自然を大切にしたい。

隊員の意見 03

鉱山であった足尾の現実を見ることができ、「自然環境を取り戻す活動をしている」という実感が一番湧いた活動だった。

隊員の意見 04

山に木を植えて緑を増やす一方、現在は、太陽光発電で山林の木を伐採しているので、矛盾していると思う。

隊員の意見 05

今後の未来にかかわることをしたという達成感がある。

隊員の意見 06

今でも良く思い出し、勇気を出して参加して本当に良かった。栃木の歴史と自然を体感することができた。

隊員の意見 07

環境について考える良いきっかけとなった。公害の原点と言われる足尾銅山とその周辺地域はとても衝撃的だった。

隊員の意見 08

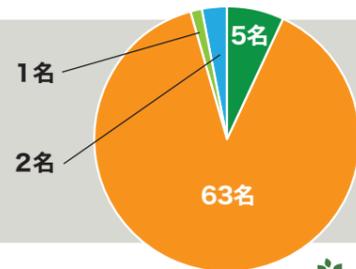
沢山の人が植樹してきた山なので、これからも緑が沢山ある山であって欲しいと思う。

Question.5 足尾の植樹活動をはじめ、このような自然保護活動に参加したいですか。

殆どの隊員が、また足尾の植樹や自然保護活動に参加したいと考えている。

【アンケート結果】 全体 71 名

- 是非また参加したい 5 名
- もう参加したくない 1 名
- また参加したい 63 名
- どちらとも言えない 2 名



隊員の主な意見

隊員の意見 01

足尾の植樹に、次も参加したい。もう一回参加してみたい。

隊員の意見 02

地球のために少しずつでも木を増やしていきたい。

隊員の意見 03

環境を良くする活動やエコ活動などは今後参加していきたい。

隊員の意見 04

自然に関わるボランティアがあったら是非参加したい。

隊員の意見 05

今後も自然を守るための活動に参加したい。自然と触れ合える活動に参加したい。

隊員の意見 06

子供と一緒に参加し、自然の大切さを教えてあげたい。

隊員の意見 07

造園の仕事をしているので、今後も参加したい。

隊員の意見 08

良い経験だったと思うが、今の所、意欲的ではない。

引率教諭の想い

Question.1 初めて参加した時の印象。児童・生徒たちの様子はいかがでしたか。

当初の植樹活動に参加した隊員は、足尾の山の色は“茶”と、山を見る目は悲しそうで、本当にこれが育って緑が増えるのか心配そうだった。

活動の回を重ねるごとに、隊員たちは、小さな木々が植樹されている様子に緑の大切さを実感し、自分たちの植樹木がどのように成長して行くのか楽しみに、一生懸命に植樹活動をしていた。自然の中で、とても楽しそうだった。

主な意見

意見 01

当初、足尾の山は“茶”と答える生徒が多く、山を見る目は悲しそうだった。

意見 02

本当にこれが育って緑が増えるのかと心配そうだった。



意見 03

茶色の山肌が見える足尾の山々に小さな木々が植樹されている様子を見て、緑の大切さを実感している様子だった。

意見 04

自分たちが植えた木がどのように成長していくのか楽しみにしていた。自分の樹木だとうれしそうだった。

意見 05

自然の中で、とても楽しそうに参加していた。大自然の中で実際に生き生きとしていた。

意見 06

足尾の山々に緑を取り戻す活動に参加している喜びを感じていた。

Question.2 初めて参加した時の先生ご自身の印象はどうでしたか。

当初は、山々が赤茶で荒涼としている風景に驚愕。

山を緑で一杯にすることは壮大な企画と思いながらも、徐々に生えそろう緑で変化していく景観を楽しみにし、活動の意義を実感できた。

隊員たちの環境保護意識を育む良い機会であり、関係者の苦勞と活動の成果に感動した。

主な意見

意見 01

この活動が始まったばかりの頃は、山々が赤茶で荒涼としていて驚愕を覚えた。全く緑が失われてしまった山々を見てすごく悲しい気持ちになった。

意見 02

当初は、山肌が露出して大変な事業であると予想したが、徐々に緑も生えそろうって景観が変化していく様子を楽しみにしていた。

意見 03

環境を失うのは速く、取り戻すのは時間がかかるということを実感した。時間が経過しているのにまだまだ緑が少ないという印象があった。

意見 04

植樹された木々が成長している様子に励まされ、活動の意義を実感することができた。

意見 05

子供たちが故郷の森林の再生、環境保護に高い意識を育めることにうれしい機会であると感じていた。

意見 06

先人の努力は素晴らしいと思った。先人の思いをどう次世代の若者に伝えていったらいいか、考えさせられた。

Question.3 参加する回を重ねるごとに児童・生徒たちの様子に変化はありましたか。

2度、3度と参加した隊員たちは、年々変化していく景色に感動し、数年後の風景を思い描き、心を込めて植樹していた。自分が環境改善に一役かっていることを実感しているようだった。故郷を思う気持ちが育まれ、自然に触れ、故郷の役に立っていることに前向きな喜びを感じるようになってきた。

主な意見



意見 01

生徒たちが助けあって、一生懸命に植樹をしている姿が眩しいくらい美しかった。

意見 02

年々変化していく景色に感動し、それぞれが数年後の風景を思い描き、心を込めて植樹している様子が見られた。

意見 03

自分の植えた木の成長を見るのが楽しみと感じていた。

意見 04

自分たちが植えた木の成長を確認し、少しずつではあるが緑が増えていく姿に達成感を持っていた。

意見 05

故郷を思う気持ちが育まれ、自然に触れ、故郷の役に立っていることに前向きな喜びを感じるようになってきた。

意見 06

自分が環境改善に一役かっていることを実感しているようだった。



Question.4 参加する回を重ねるごとに先生ご自身の印象に変化はありましたか。

回数を重ねる度に増えていく山の緑を嬉しく思い、植樹した木の成長を見ることができるので、毎年の作業が楽しみになった。また、同じ心を持った方々との共同作業も良い時間となっていった。教科指導の中で、事例として積極的に紹介するようになった。

主な意見



意見 01

年度が経過するにつれて緑が増えていき、素晴らしい活動だと感じた。

意見 02

回数を重ねる度に、山に緑が増えていくのがわかり、自分の植えた木は年に一本だが、嬉しく思った。多くの人々の手によって山に緑が戻っていると感銘した。

意見 03

最初に植えた木を確認することができるので、毎年の作業が楽しみになった。

意見 04

1年前に植えた木が大きくなっているのを見たときにとても嬉しかった。少しは自分の行動が役に立っているのだと感じた。

意見 05

植樹した木々の成長が本当に楽しみになった。同じ心を持った方々との共同作業も良い時間となっていた。

意見 06

初参加から9年が経ち、劇的に変化していく景色を目の当たりにし、今後も微力ではあるが植樹に参加し続けていきたいと思った。

意見 07

教科指導の中で、事例として積極的に紹介するようになった。

Question.5 これまで参加された中で、何か印象深い出来事がありましたか。

引率の先生方は、印象に残る出来事として、次のような事を挙げている。
①生徒や家族、自分が植樹した木が大きく成長している姿に大変感謝するとともに、年月はかかるが確実に成果を残す活動であると実感したこと。
②隊員たちが一生懸命に植樹をしている姿を美しく感じ、向かいの山にいた鹿に自然が戻っていると感じたこと。

主な意見



意見 01

過年度生の名前が書かれた札が大きく成長した樹木にかけられていたこと。

意見 02

自分のネームプレートが付いた大きくなった木を見ているうちに自然に涙が止まらなかったこと。

意見 03

本校1期生が植樹した木が大きく育っているのを見つけたとき、長い年月はかかるけれど確実に成果を残す活動だと実感したこと。

意見 04

青空のもとでの作業の後、教え子や息子の植えた木の成長を見ることがとても楽しかったこと。

意見 05

本校、他校の生徒たちも一生懸命に植樹している姿が美しかったこと。

意見 06

向かいの山を鹿が降りてくるのを見て、少しずつ自然が戻っている証拠なのかと思ったこと。

Question.6 足尾の植樹活動をはじめ、このような活動を今後実施することについてどう思われますか。

引率の先生方はほぼ全員、郷土愛や環境保全の心を育てる素晴らしい機会であると捉え、足尾の植樹活動のような自然保護活動を継続してもらいたいと考えている。植樹本数を増やしたり、下草刈など年間を通した活動になることを望む声も聞かれる。

主な意見



意見 01

自分たちが生活する県の歴史、環境問題、道徳観、様々なことに取り組むことができる企画なので、できれば継続して欲しい。

意見 02

自然愛護の感覚を養う最高の機会であると考えているので、今後も継続して実施して欲しい。

意見 03

可能であればまた参加させていただきたい。1人1人が植える木は毎年1本だが、何年もかけると山々に緑が広がっていくのを3年間通った生徒達は実感できたと思う。

意見 04

是非継続していただけたらと思う。本当に、教育上も郷土愛や環境保全への心を育てる素晴らしい機会だと思う。

意見 05

足尾の植樹活動等環境保全や生態系の維持にかかわる活動は今後ますます重要になってくると思うので、活動内容を密度の濃いものにしていただきたい。

意見 06

生徒が植樹をする機会を設けてくれたことに感謝している。植樹だけでなく、森を守っていくことの大切さをレクチャーする機会も必要と考える。下草刈など年間を通した活動になると良いと思う。



NPO 法人とちぎ生涯学習研究会とは

多様な国際社会の中、地球環境に配慮したグローバルなマインドと新しい知識、コモンセンス、情報などを備えた人材の育成と、様々な悩みや問題を抱えた方々や不登校でひきこもりの子ども達などに対して、市民協同による学習の環境づくりを支援し、次代を担う青少年の健全育成と社会的自立、また、ハンディキャップのある方々や高齢者などの自己啓発を図ることにより、生涯学習社会の実現を目指す団体。

団体の主な活動

- ① 環境保全活動
 - どんぐりから苗木一本国民運動（どんぐりから森を育てる循環型植樹活動）
 - ※水と緑の少年隊による足尾の植樹活動には、平成26年度・第13回から参加し、足尾の森などから採取したどんぐりの実から成長させた苗木を植樹する活動を展開している。
- ② 教育支援活動
 - アフタースクール寺子屋（放課後留守家庭児童を支援する学童保育）
- ③ 災害支援活動
 - P T S Dに対応した学習支援・子どもの居場所づくり

Question.1 あなたにとって足尾はどのような所ですか。

回答01 環境問題を自分事化して捉えるきっかけを与えてくれた場所です。大学に入学して初めてのイベントが足尾での植樹活動でした。ボランティアをしてみたい、歴史の舞台に降り立ってみたいという軽い気持ちで参加しましたが、地面がむき出しになった山肌を見て受けた衝撃は今でも忘れられません。それは、幼い頃から自然豊かな場所に出かけ、生きものを探るのが大好きだった私にとって、ショックながらも見て見ぬふりをしてはいけなさと痛感するに十分な光景でした。環境問題は遠い場所で起きているものばかりではなく、日々の暮らしと隣り合わせであることを実感し、

継続的な環境の保全・育成に携わりたいと強く思いました。貴会から賜りましたご協力と様々なご縁のおかげで、栃木県で過ごした4年間、足尾の山のことを同世代や子供達に伝え、微力ながら活動に関わらせていただきました。その延長で、東北に進学・就職した後も、新たな仲間を足尾に連れてきて共に植樹をさせていただきました。今後も、定期的に足尾を訪ねてお手伝いさせていただくとともに、次世代に取り組みを繋いでいければと考えております。

回答02 自然と共に生きる大切さを改めて考えさせられる場所です。足尾の山には植樹活動で何度か訪れたことがあります。あの茶色い山肌の広がる足尾を見るたびに、私たちが今こうして便利な生活をしている反面、壊されてしまっている自然や緑があるのだ

ということを改めて考えさせられます。足尾で懸命に生きる木々やそこで暮らす生き物たちの姿を見ると、自然環境と調和の取れた生活を人々がしていければと考えさせられます。

回答03 環境保全活動をしながら仲間と思い出が作れる場所。

回答04 環境問題について考えるきっかけとなった土地です。足尾銅山で起きた鉱毒事件は、人間が自然との共生なしには生きることができないということを教えてくれます。私は、大学生の時に初めて植樹活動に参加しました。狭い山道を抜け進んでいくと、急にそれまでの青々とした緑豊かな風景が消え、荒廃した岩肌がむき出しの足尾の山々が目に飛び込んできました。幾重の山々の奥先に、まるで人目から遠ざけられているかのように存在している足

尾に、当時大きな衝撃を受けました。その経験がきっかけで、大学では環境保全を行う活動に携わりました。日常生活の中では、自然のありがたみをつい忘れてしまっていますが、この足尾を訪れることによって、豊かな自然環境は決して当たり前にあるものではないと、その自然を残すのも壊すのも、今の私たちの心がけ次第だということを再認識することができます。

Question.2 少年隊員による植樹活動に参加した感想をお聞かせください。

回答01 初めて訪れた時は、地面がむき出しの山を見てショックを受けるばかりでした。ポツポツと見える小さい木は、人によって植えられたものや最近育ち出したものと聞き、普通の山に戻るまではどれほどの時がかかるのかと、気の遠くなるような思いがしました。しかし、毎年同じ場所を訪れ植樹に取り組むうちに、木々が成長し緑の割合が増えていく印象を受けました。このことは共に活動する仲間も感じていたようで、活動を継続し見守り続けることの大切さを実感しました。

また、わずかでも自然の復元を目の当たりにした私達だからこそ、このことを次世代を担う若者や子供たちに伝えていかなければと強く思いました。初めて足尾植樹に参加した学生に感想を尋ねると、決まって「話には聞いていたけど、想像以上に緑がなくて驚いた」と話してくれます。やはり百聞は一見にしかずで、自分の目で見て手を動かして初めて、かけがえのない自然を肌で感じられるのだと思います。そして、繰り返し足を運んで自然の復

元を見ることで、自分達の行い次第で未来の環境は変えられると気づくことが重要であると考えます。これまで本会（NPO法人とちぎ生涯学習研究会）スタッフとして活動する中で、多くの小学生親子とともに、日光の山で採取したどんぐりから苗木を育成し、松木溪谷に植栽する取り組みをさせていただきました。子供たちにとって、小さなどんぐりが植える頃には大人の背丈ほどに成長するのは興味深かったようで、非常にいい笑顔で活動していたのが印象的です。また、ご家族でコミュニケーションを取りながら活動していただいたことで、家族の思い出が増えるとともに、環境への理解や配慮がより深まったのではないかと思います。

このように、植樹活動を通して多くを学ぶことができたのも、貴会の皆様はじめ多くの先生方・先輩方が取り組みを繋いでくださったおかげです。心より感謝申し上げます。

回答02 足尾の山を初めてみたときの衝撃は今でも忘れることが出来ません。足尾の山については、「足尾銅山鉱毒事件」という歴史の教科書に載っている栃木県にある山としか認識していませんでした。しかし、茶色の山肌の広がる足尾の山を初めて見たとき、それは決して歴史上だけの出来事ではないということを実感しました。それと同時に人の手によってここまで緑が破壊させられてしまったのかと、衝撃と恐怖を感じたことを覚えています。

足尾の山の中に入っていくと、たくさんの木々とそこに添えられた個人・団体名が書かれた看板を数多く見ました。今までにた

くさんの人々がこの山を訪れ、この足尾の山の姿に衝撃を受けたことと思います。足尾の山に根付いた一本一本の木々には植えた人たちの自然を思う気持ちが込められているように感じました。私もその中の新たな一本として、足尾の失われてしまった緑とその復興の願いを込めて植樹をさせていただきました。

このような植樹の機会がなければ、足尾の山に行くことも、現状を知ることもできなかったと思います。本当に貴重な体験をさせていただいたと思っております。

回答03 これまでに低所や斜面での植樹を経験し、年々木々が増えていることを嬉しく思っています。木の種類や特徴についての説明を聞いてから植えるため、それぞれの木の役割を学ぶこともできました。私たちの団体では、毎年栃木県内外の大学生や親子と参加

させてもらっていますが、やりがいがあって楽しく植樹ができるため、初めてボランティア活動をする人にもおすすめです。幅広い年代の方が参加しているこの活動がこの先も永く続いてほしいと願っています。

回答04 険しい山々に立ち入った植樹活動は本来であれば専門性が高く、安全の確保が必須ですが、少年隊員としての植樹は初心者でも安心して行うことができました。その理由はもちろん、主催されている貴会員の方々による周到な準備と丁寧な説明があるからこそだと思います。

また、植える苗木も健全な苗木が選ばれ、支柱や防護ネット等を使用しており、そうした一つひとつの積み重ねが、今日の足尾の緑化へつながっていると思います。植樹に参加する中で、これまでに多くの動物を目にしました。人が集まるところまで下りて

くることはありませんが、鹿や熊などの親子が遠くからこちらをじっと見つめている様を見ることが出来ます。一時は動物たちも消えてしまった足尾の山々ですが、緑の再生とともに少しずつ、当時の生態系が取り戻されつつあることを知ることができ、植樹活動の成果を実感することができました。

苗木が成長するのに時間がかかるように、足尾の緑化再生にはまだまだ継続的な取り組みが必要であることを強く実感しました。今後も定期的に足尾を訪れ、植樹活動に参加してゆきたいと思えます。

